

2025年1月 佐伯通信 【熱海だより】

2025年1月 佐伯通信 【近刊予告】



みかんと日向ぼっこ

# 記憶の波間で

# 佐伯通信

2025年1月(令和7)  
第69号  
発行 佐伯泰英事務所  
担当 文藝春秋  
禁・無断転載

明けておめでとうございませう。ただ今、新作を執筆中です。ただし、二〇二五年初春刊のお知らせしていた『手洗河岸』四巻目ではありませぬ。新作『一文字助真』を認めています。半年ばかりずれた夏頃に光文社文庫から刊行したいと考え

ています。かように予定がくるくると変わるのは偏に作家の老いのせいです。数年前から物覚えの衰えと物忘れが進行し、原稿執筆中のわずかな暇に記憶が消える。机の上に乱雑にある帳面やメモ帳をひっくり返して記憶を手繰る間に、なにを探しているのか、忘れてしまつて世の中には、新作の構成を冒頭から最後まで思案してメモに記し、それに沿って進める作家氏もいると聞きますが、いきなり思い付いた出来事から書き始めるのが私の執筆法です。その

## 佐伯泰英 / 近刊のお知らせ

《文春文庫》 みつめい 密命 [決定版]	2025年 6月4日	① 見参! 寒月霞斬り
	7月8日	② 弦月三十二人斬り
	8月5日	③ 残月無想斬り
	9月3日	④ 刺客 斬月剣
《光文社文庫》 こうたいよりあい 交代寄合 いなしゅういぶん 伊那衆異聞 [決定版]	2025年 6月上旬	① 変化
	7月上旬	② 雷鳴
	8月上旬	③ 風雲
	9月上旬	④ 邪宗
《光文社文庫》	2025年夏	『一文字助真(仮)』

※発売日は予定です

出版社からのお知らせ

佐伯泰英傑作エンタメ時代小説  
2シリーズ同時に  
復刊開始!

幕末の動乱期を  
圧倒的スケールで描く  
交代寄合  
伊那衆異聞 [決定版]

電子書籍も  
同時に発売  
《光文社文庫》  
全23巻

密命 [決定版]  
全26巻  
電子書籍  
好評発売中  
《文春文庫》

2025年  
6月から

2025年1月 佐伯通信 【PR】

佐伯泰英HP

最新の情報、佐伯泰英HP  
でご確認ください。

<https://www.saeki-bunko.jp>

大学芸術学部に入学後、昭和三十六、七年のことです。はい、大学食堂のカレーライスがなんとも美味でした。そんなことは覚えていないのに、我が作品のことは薄れていく。人の記憶とはじつに不思議です。

文春文庫局長 大沼貴之

大変長らくお待たせをいたしました。

「助太刀稼業」シリーズの第三巻を新年の初荷でお届けいたします。

第二巻の刊行後、連日のように、お問い合わせを頂いており、改めて愛読者の皆様の佐伯作品へのご期待の高さとそれに携わる編集者としての責任を感じて参りました。刊行が当初の予定から遅れましたことをこの場を借りてお詫びいたします。

そして、本年は時代小説界に大旋風を巻き起こしました「密命」シリーズを文春文庫版で刊行いたします。令和に蘇る金杉惣三郎一家の活躍で、浮世の憂さを晴らして下さればと願っております。

▼文春 PCやスマホでも ▼光文社

佐伯作品は、  
文庫版(紙の本)と電子書籍で  
刊行中! 各シリーズ紹介は出版社の  
サイトをご覧ください。

2025年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が光文社、文藝春秋の協力のもと発行します。

2025年1月 佐伯通信 【熱海だより】

時々思い付いたアイデアが冒頭部分となり、物語が展開していく。頭の中に架空のメモ帳があり、必要な折りに開けば知りたいことが分かりました。

物書きになって半世紀ほどが過ぎました。これまで執筆した小説にはシリーズとして巻を重ねたものも多く、「居眠り聲音」シリーズは五十一巻です。「新・居眠り聲音」も加えると正確に何巻なのか思い出せません。ともかく長い。

そうなる、膨大な登場人物があり、エピソードの重層的な重なり合いと展開が当然ある。構成表も人物表もなしで最後まで書き上げるやりかたでは緻密な仕上がりとはほど遠い。にも拘らず思い付きと記憶力を優先して脱稿まで強引に突っ走ってききました。体力知力がそれなりに伴った若さゆえ可能なことだったのでしよう。

私、ひと月半後に八十三歳を迎えます。

人生最初の記憶は、先の大戦の空襲下、炎上する八幡(現北九州市八幡東区)の橙色の炎をおよそ八キロ離れた折尾の防空壕の前から眺めている光景です。この空襲後のことはほとんど覚えておらず、小学校五、六年生のころの学校給食開始くらいまで空白です。飢えの時代がいつまでも続いていた記憶しかありません。

後年、学び舎がそれなりに面白いと感じたのは学びと遊びが融合していた日本

の八幡の空襲は昭和二十年八月八日、私は三歳半でした。私はなにが起っているのか分からず、お寺の土手に設けられた防空壕の前から傍観していました。足元の畑には貧弱なトマトが植えられていました。

この空襲後のことはほとんど覚えておらず、小学校五、六年生のころの学校給食開始くらいまで空白です。飢えの時代がいつまでも続いていた記憶しかありません。